

問1 九州地方のある県における2019年の農産物産出額の統計では、上位から順に「肉用牛」、「豚」、「ブロイラー（鶏）」、「鶏卵」となっており、上位4品目すべてを畜産関連が占めています。このような特徴を持つ県として最も適切なものを選びなさい。（2022年 宮城県公立入試 類似）

1. 鹿児島県 2. 宮崎県 3. 熊本県 4. 福岡県

問2 九州地方の自然環境に関する説明として、火山の活動によってできた「大きなくぼ地」を指す用語と、その形成過程の説明として最も適切なものはどれですか。（2023年 和歌山公立入試 類似）

1. カルデラ：火山の噴火やその後の陥没によって形成された
2. 盆地：周囲を山地に囲まれ、地殻変動によって相対的に低くなった
3. シラス台地：火山噴出物が積もってきた、水はけのよい台地
4. 断層：地震などの地殻変動により、地層にズレが生じてできた

問3 鹿児島県における豚の飼育状況について、1970年代から2010年代にかけての変化を説明した文として、適切なものはどれですか。（2015年 兵庫公立入試 類似）

1. 飼育戸数が減少する一方で、一戸あたりの飼育頭数が増加し、経営規模が拡大した。
2. 飼育戸数と飼育頭数がともに減少し、県全体の生産体制が縮小した。
3. 飼育戸数は横ばいだが、一戸あたりの飼育頭数が減ったため、生産効率が低下した。
4. 飼育戸数が急増したことにより、一戸あたりの飼育頭数が制限されるようになった。

問4 日本列島周辺の海底地形のうち、九州地方の西側にある東シナ海の特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。

（2016年 岡山公立入試 類似）

1. 大陸から続く水深200m程度までの平坦な海底が広がっており、好漁場となっている。
2. 水深6000mを超える細長い溝状の地形が続き、プレートの沈み込み帯となっている。
3. 海岸沿いに砂が堆積してきた砂州が発達し、巨大なラグーンを形成している。
4. 周囲を急峻な斜面に囲まれた、非常に深い盆地状の地形が中心となっている。

問5 沖縄県の離島などで、農業用水を確保するために「地下ダム」という独自の施設が整備されている理由について、地形や地質の観点から説明したもののとして最も適切な記述はどれですか。（2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 地表に水を通しやすい琉球石灰岩の層が広がっており、降った雨がすぐに地中にしみ込んでしまうため。
2. 年間降水量が極端に少なく、雨水を確保するために大規模な河川を建設する必要があるため。
3. 標高の高い山地が多く、地表にダムを建設すると土砂崩れの危険性が非常に高まるため。
4. 土壌が稲作に非常に適しているが、地表の気温が高すぎて水がすぐに蒸発し、水田が干上がってしまうため。

問6 沖縄などの南西諸島に見られる伝統的な家屋では、家の周囲を丈夫な石垣で囲む工夫がなされています。このような造りになっている主な理由として、地域の自然環境の特徴と関連付けて説明したものを選びなさい。（2015年 佐賀公立入試 類似）

1. 冬の季節風によって運ばれてくる大量の積雪から家屋が押しつぶされるのを防ぐため。
2. 夏から秋にかけて頻繁に接近・上陸する台風による激しい風から家屋を守るため。
3. 近くにある大規模な飛行場などの軍事基地から発生する激しい騒音を遮断するため。
4. 標高が低く、周辺の河川が氾濫した際に浸水被害を最小限に食い止めるため。

問7 九州地方南部に広がるシラス台地は、火山灰が堆積してできた地形で水はけが良すぎるため、古くから稲作には不向きとされてきました。このような自然環境を背景に、鹿児島県で特に発展した農業の特色として最も適切なものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 温暖な気候を利用したビニールハウスによるピーマンやきゅうりの促成栽培
2. 水はけの良さを活かしたサツマイモなどの畑作や、肉用牛・豚などの畜産業
3. 広大な土地を利用した乳用牛の飼育と、バターやチーズなどの乳製品の加工
4. 急傾斜地を切り拓いて作られた段々畑での温州みかんやレモンなどの果樹栽培

問8 九州地方には阿蘇山や桜島などの活火山が多く存在しますが、これらの火山活動による地下の熱を利用した発電方法を何といいますか。（2026年 和歌山公立入試 類似）

1. 地熱発電 2. 水力発電 3. 火力発電 4. 原子力発電

答え合わせ・解説

問1	答え 1 鹿児島県	鹿児島県は九州地方の南部に位置し、広大なシラス台地を利用した畜産業が非常に盛んです。特に肉用牛、豚、ブロイラーの産出額は全国でもトップクラスであり、農業産出額の多くをこれらの畜産品が占めているのが特徴です。選択肢にある宮崎県も畜産業は盛んですが、この統計順位に最も合致するのは鹿児島県です。
問2	答え 1 カルデラ：火山の噴火やその後の陥没によって形成された	阿蘇山などで見られる大規模なくぼ地は「カルデラ」と呼ばれます。爆発的な噴火によって大量のマグマが放出された後、山体が自らの重みに耐えきれなくなって崩れ落ち（陥没）、巨大なくぼ地となります。選択肢にある「シラス台地」も火山に関連した地形ですが、こちらは噴出物が堆積してできた「台地」であり、「くぼ地」であるカルデラとは形状が異なります。
問3	答え 1 飼育戸数が減少する一方で、一戸あたりの飼育頭数が増加し、経営規模が拡大した。	鹿児島県の統計資料によると、飼育戸数を示す指標は年々減少の傾向にあります。飼育頭数を示す指標は高い水準を維持し続けています。このことから、一戸あたりの飼育頭数が以前よりも大幅に増えていることがわかります。これは農家の高齢化や後継者不足により戸数が減る一方で、残った農家が設備投資などを行い、より多くの家畜を育てる大規模化が進んだことを示しています。
問4	答え 1 大陸から続く水深200m程度までの平坦な海底が広がっており、好漁場となっている。	九州西方の東シナ海は、大陸棚が広大に広がっていることが最大の特徴です。この地形は、かつての氷河期には陸地であった場所が、その後の海面上昇によって浅い海となったものです。プランクトンの増殖に適しており、古くから漁業が盛んな地域として知られています。海溝は太平洋側に多く見られる特徴です。
問5	答え 1 地表に水を通しやすい琉球石灰岩の層が広がっており、降った雨がすぐに地中にしみ込んでしまうため。	沖縄県の多くの地域や離島では、サンゴ礁が堆積してできた「琉球石灰岩」が地表を覆っています。この岩層は透水性が非常に高く、梅雨や台風で大量の雨が降っても地表に水が残りにくい（川が形成されにくい）という特徴があります。一方で、その下には水を通しにくい「泥岩」の層があるため、人工的な「止水壁」を作って地下水として貯める手法が、農業用水を確保する最も効果的な手段となりました。
問6	答え 2 夏から秋にかけて頻繁に接近・上陸する台風による激しい風から家屋を守るため。	沖縄県を含む南西諸島は、夏から秋にかけて「台風の通り道」と呼ばれるほど頻繁に台風が接近・上陸する地域です。激しい風雨による被害を最小限に抑えるため、伝統的な家屋では屋根の瓦を漆喰で固めたり、家の周囲をサンゴ礁の岩石などで作った丈夫な石垣で囲ったりするなどの強風対策が取られてきました。軍事基地の騒音対策や積雪対策は、この地域の伝統的な家屋構造の主な理由とは異なります。
問7	答え 2 水はけの良さを活かしたサツマイモなどの畑作や、肉用牛・豚などの畜産業	鹿児島県の大半を覆うシラス台地は、水分を保持しにくい性質があるため、水田稲作よりも畑作に適しています。このため、乾燥に強いサツマイモの栽培や、広大な台地を利用した肉用牛・豚・鶏（ブロイラー）などの畜産業が組み合わせられ、全国有数の農業地帯となりました。他の選択肢のうち、促成栽培は宮崎平野や高知平野、果樹栽培は愛媛県や和歌山県、大規模な酪農は北海道などで顕著に見られる特色です。
問8	答え 1 地熱発電	九州地方は火山帯に位置しており、地下深くにはマグマだまりが存在します。この熱によって生じた高温の蒸気や熱水を取り出し、タービンを回して発電する仕組みを地熱発電と呼びます。大分県や鹿児島県で盛んに行われており、再生可能エネルギーの一つとして注目されています。